

売却されるのは「名前」だけではない!

1 住民の声を聞いた京都市美術館再整備に

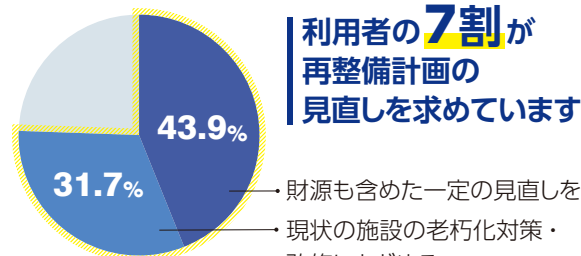
売却されるのは京都市美術館の「名前」だけではありません。改修後は、美術家・市民などが展示する貸館スペースが大きく削られ、京セラ傘下のグループ企業に「優先利用権」が与えられます。

市民・美術家から反対の声が強まる中、京都市は2月に京セラと契約を結び、市議会に約100億円の工事請負契約を提案しました。

日本共産党議員団は、「企業活動のPRや施設の優先利用のために、市民の財産である美術館を売り渡すもの」と追及し、「京セラとのネーミングライツ契約は撤回すべき」と強く求めました。住民のみなさんとともに、粘り強く命名権や優先利用権の売却撤回と計画の見直しを求め、引き続き奮闘します。



市役所前での抗議の宣伝行動



「岡崎公園と疏水を考える会」の調査から

2 北泉通の工事は中止し、左京南部に区役所支所の設置を



議員団として北泉通の工事予定地を調査

昭和2年に都市計画決定された北泉通の道路整備。京都市は道路拡幅のため用地収用される地権者との交渉が未成立のまま、見切り発車で橋脚工事に着手しています。工事中・工事後の交通安全対策についても住民の納得を得ておらず、地元説明会では不安の声が続出。工事中止を求める住民監査請求には1366人が名前を連ね、工事差し止めを求める提訴も行われました。

日本共産党議員団は、2月市会で「住民合意のない北泉通の工事は中止し、住民との話し合いに誠実に応えよ」と迫りました。区役所へのアクセス改善のためには、南部支所の設置とシャトルバスの運行こそ緊急課題と提案しました。

3 景観を破壊する 下鴨神社のマンション・大型倉庫建設

世界遺産・下鴨神社境内のバッファゾーンでの高級マンションの建設。同じく、神社の敷地内(コアゾーン)での大型倉庫の建設。いま、住民の反対をおしきっての建設工事が、世界遺産の景観を破壊しながら進められています。

日本共産党議員団は、市民のみなさんの運動と力をあわせ、市議会の論戦でも「世界遺産である下鴨神社や二条城の景観を守れ」と繰り返し求めてきました。



マンション建設のすすむ下鴨神社

1万3000筆の「国際署名」提出



住民らユネスコ本部で「勧告」を要請

2月には、マンション建設に反対する「糺の森未来の会」などのメンバー5人が、パリのユネスコ本部の世界遺産センターを訪問。同センターのアジア太平洋部門の責任者らに、建設工事の進行状況を説明し、環境への影響に対する懸念を表明して、現状の調査と適正化への「勧告」を出すよう要請するとともに、約1万3000筆の「反対」の国際署名を提出しました。

◀パリの世界遺産センターを訪問し、「勧告」を要請する住民ら



どんなお困りごともお寄せください

左京区生活相談所 TEL 781-6622 FAX 712-6864

市民と力をあわせ、
くらし・文化! 景観を守る